

ご挨拶

国大化学会会長 米屋勝利（昭和 37 年電化卒）

平成 21 年 4 月から前樋口会長の後任として会長に就任し以来 1 年半が経過しました。任期 2 年間の最重要課題を「ネットワークの構築」と「学生支援」と定め、グループリーダーを中心とする役員や関係者会員各位とともに鋭意努力してまいりました。その結果、お陰をもちまして同窓会の具体的な活動内容とそれを達成するための仕組みをほぼ明確にすることができました。現時点の達成状況には温度差はありますが順調に進んでいると認識しております。具体的には、2 つの重点課題は後で述べるように形を整え実行に移せるものから実施しております。そのほか、年 2 回の同窓会誌（国大化学会会誌）の発行、ホームページ（HP）の立ち上げ、メルマガの発行など会員皆様に各種の情報提供ができるようになりました。同窓会最大の行事である第 4 回国大化学会総会は 6 月 19 日（土）崎陽軒本店において開催されましたが、今年は例年を上回る 142 名の参加者を迎え盛大な総会になったことを大変うれしく思っております。また、今年は名簿発行の年でもあります。これも年内には皆様のお手元に届けることができると思います。例年開催されている大学／同窓会の合同行事「ホームカミングデー（HCD）」は 10 月 30 日（土）に「国際化」をテーマとして開催されます。今年は、工学部同窓連合会が担当し、平井太郎（昭和 41 年電化卒）国大化学会副会長が HCD の筆頭実行副委員長を務めます。皆様の積極的なご参加を希望します。横浜国立大学創立 60 周年記念行事としての寄付金についても、現在進行中ですので皆様からのご協力をお願いします。以上、現状の概略を報告しましたが、詳細は各グループリーダーが本誌で報告しておりますのでそちらをご覧ください。もう一つ、皆様から戴く会費（2000 円／年）は同窓会活動を支える貴重な資源です。本会誌においても会費納入 G 本間昭弘（昭和 44 年 2 部電化卒）リーダーからお願い申し上げますが、今後共ご協力のほどよろしく申し上げます。以下は、第 4 回国大化学会総会と 2 つの重要課題についてこれまでの経緯と現状を報告させて頂き、会長の挨拶とさせていただきます。



◆国大化学会総会を終えて

6 月 19 日（土）に第 4 回国大化学会総会が崎陽軒本店で開催されました。参加者 142 名の内訳は、来賓 7 名、正会員 91 名、学生会員 44 名で例年を上回る会員や来賓のご出席をいただき、楽しい有意義な総会とすることができました。関係各位のご支援とご協力に厚く御礼申し上げます。今回の総会では、旭化成（株）の蛭田史郎氏（昭和 39 年電化卒）から「新しい潮流に対応する経営」と題するご講演を賜りました。同氏が会社経営の立場で直面された諸課題とその背景にある国内外の社会・経済情勢から、将来を見据えた企業経営のあり方を述べたもので、非常に示唆に富んだお話であり各方面から多くの謝意が示されました。ご講演の内容については、蛭田氏のご了解を戴いて本会誌に掲載（P.6～11）させていただきましたので、総会に参加できなかった方々にも是非ご覧いただきたいと思っております。懇親会では工学研究院長石原修先生、横浜工業会理事長井上誠一先生からご挨拶をいただきました。懇親会に移り、会員相互の談笑や学生-OB 間の交流を会場一杯に見ることができましたが、同時に会場の狭さと懇親会の時間不足を感じました。今後の検討課題になるかと思っております。なお、今回も総会運営に当たり学生諸君から熱心なサポートをいただきましたので、ここに改めて謝意を申し上げます。

◆最重要課題：ネットワークの構築・学生支援

「ネットワークの構築」については、企画 G の松

本リーダーを中心に精力的な検討が進められております。「クラス幹事」を「同窓委員」に名称変更して、昭和時代卒の応化会、電化・材化会ではクラス幹事の見直し再構築を開始しネットワークの要となる委員への就任を改めてお願いしております。各卒業年度を束ね、迅速な情報伝達を行うために同窓委員の充実は不可欠ですので皆様のご支援・ご協力をよろしく申し上げます。第1回同窓委員会は平成22年3月27日(土)に開催され多くの委員の方々から貴重且つ建設的な意見を戴きました。一方、平成卒業の会員に対しては、卒業年度の横のつながりが皆無に近い状態ですのでクラス幹事というわけにはいきません。そのため、こちらは研究室単位でネットワークを構築することとし研究室同窓委員の選出を進めております。私の任期の終了時点までに完全とはいかないまでも、全体としてのネットワークの仕組みを概ね完成させたいと考えております。

もう一つの重要事業は「学生に対する支援」であります。これは企画G(リーダー:松本正和(昭和45年応化卒))と教育研究支援基金運用G(リーダー:榎原和久(昭和50年応化卒))が中心になって、これに学生委員が加わる形で検討を進めてまいりまし

た。今日、具体的な事業として、OBを講師に招いて「OBと語る会」という講義、大学で支援できない行事(懇親会など)、学会参加費等への金銭的な支援を行っておりますが、その他にどのような支援が必要であるかを検討しているところです。このことに関しては奨学金制度の発足や就職支援などが挙げられております。当面「就職支援」を先行させるべくこの分野に経験のある金子守正(昭和45年応化卒)氏に企画G役員として加わっていただき、支援可能な人材の発掘に努めていただいているところです。学生支援に関しては多岐に亘る事業が考えられることから、さらに会長直属の学生支援WGを立ち上げ、当面は3月末を目標に具体的な方向付と内容検討のための活動を開始しました。

国大化学会が発足してまだ4年目ですので、多くの課題を同時進行によって迅速に解決することが急務であります。そのための難しさも多々ありますが、残された会長任期の中で、少しでも将来を見据えた有益な方向付を得て次期会長に引き継ぎたいと考えておりますので、会員各位のなご一層のご協力とご支援を切にお願い申し上げます。